

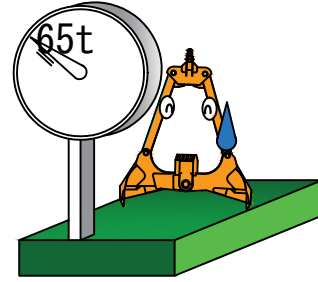
とつきよ だい とう しゃ がた しん せつ せん ツー 特許第6890343号 新型ハイブリッド式浚渫船Ⅱ



とつきよ ちやうげん ぶん
特許庁 原文へ

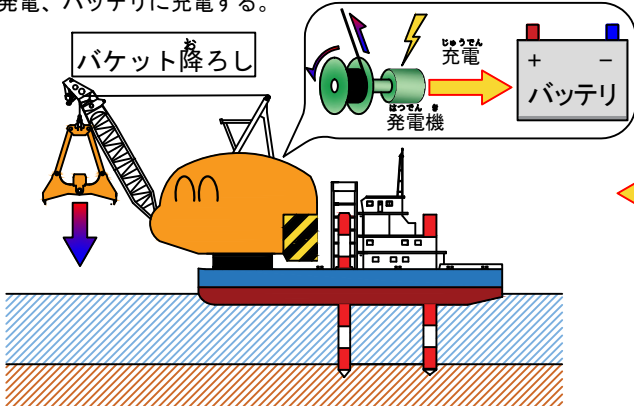
せい しきめい しやう しん せつ き もち しん せつ ほう ほう
正式名称: 浚渫機を用いた浚渫方法

しん せつ き ぎやう しやう
浚渫作業に使用するグラブバケットは容量2.5m³、
ふつ じ ばん じやう
普通地盤用グラブバケットで約65トン程の重量が
あります。

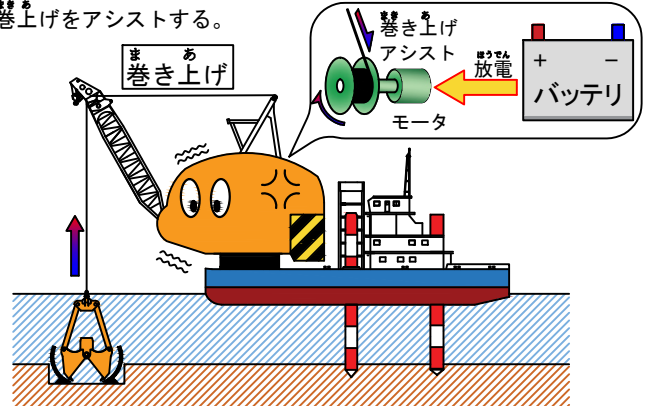


そのグラブバケットの持つ位置エネルギーを巻き下げる
時に電気エネルギーに変換し回収。バケットを巻き上げる
時にアシストする浚渫機が実用化され各地の港で活躍
しています。

バケットを降ろす際、発電機を
回し発電、バッテリーに充電する。



蓄電された電力を使用しバケット
巻き上げをアシストする。

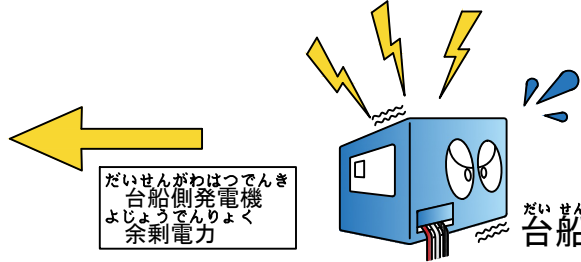
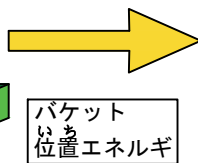
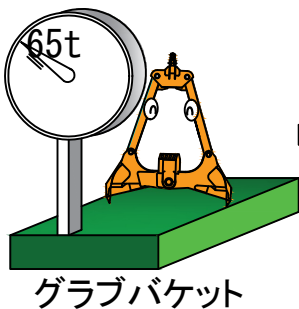
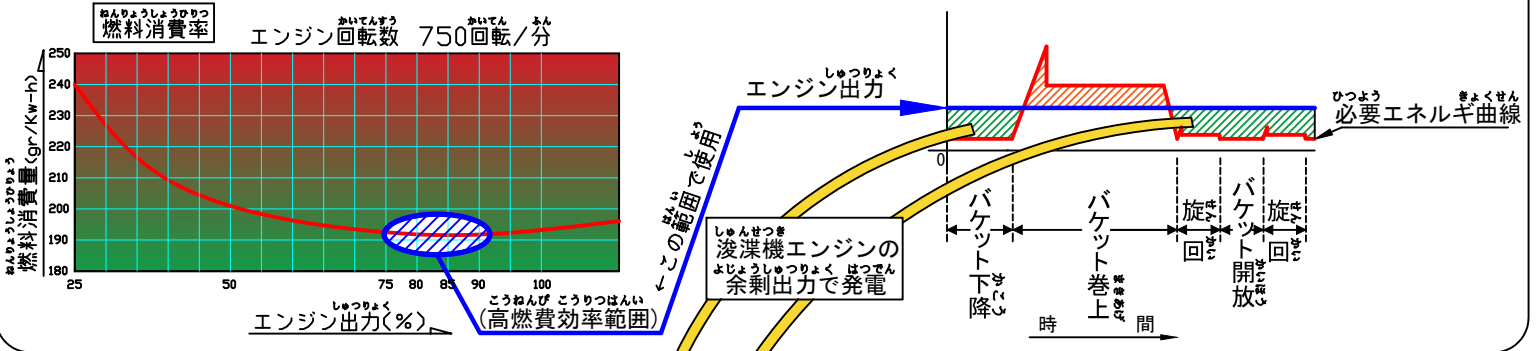


ここまでが既存技術ですが、バケットの位置エネルギーの回収・利用にとどまっています

本発明は我が社のもつ「特許第6590741号」を発展させた技術を用いて
バケットの位置エネルギーだけでなく浚渫機エンジンの余剰出力、台船側発電機の
余剰電力も利用し、浚渫船丸ごと省エネ化するものです。



浚渫機エンジン



バケットの位置エネルギー、浚渫機エンジンの余剰出力、台船側
発電機の余剰電力の3つを利用することによって浚渫機に搭載
されるエンジンを小型・小出力の物に変更することが可能。
さらに省エネルギーなハイブリッド浚渫船を造ることが出来ます。



by H.Miyazaki